



一般社団法人 大分県スポーツ学会 第11回学術大会

競技スポーツと健康スポーツ 特にオリンピック・パラリンピック

プログラム

期 日

2019年 **12月1日**(日)
10:00~

会 場

J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分県大分市金池南1-5-1

大会長

島田 達生 (大分大学名誉教授・大分医学技術専門学校校長)
安東 鉄男 (大分県柔道整復師会副会長・講道館柔道7段)



【主 催】

一般社団法人 大分県スポーツ学会

スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

ごあいさつ



一般社団法人 大分県スポーツ学会 理事長
稲垣 敦（大分県立看護科学大学 教授）

大分県スポーツ学会第11回学術大会を令和元年12月1日（日）にJ：COMホルトホール大分で開催するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当学会は、スポーツに関する知識と技術の研鑽を積み、会員相互の情報交換を通じて、大分県における健全なる青少年の育成とスポーツの人材育成を図ると共に、県民の体力向上、健康増進、スポーツ文化の醸成に寄与することを目的として平成22年の春に設立されました。そして、スポーツ救護ナース・救護員の養成・派遣・スキルアップ研修会の開催、学術大会やフォーラムの開催、メディカルマネージャーの養成、機関誌「スポーツおおいだ」の刊行等に取り組んで参りました。スポーツ救護ナース・救護員の認定者数は、904名となり、今年のラグビーW杯でもたくさんの方々が救護班で活躍され、大分県のスポーツ振興に貢献されました。

来年は、東京オリンピック／パラリンピックが開催されることもあり、今回の第11回学術大会のテーマは、「競技スポーツと健康スポーツ、特にオリンピック・パラリンピック」です。講師やシンポジストの皆さんはとても豪華で、全ての演題が魅力的でわくわくします。大会長をお願いしました大分大学名誉教授・大分医学技術専門学校校長の島田達生先生、大分県柔道整復師会副会長の安東鉄男先生には、本当に素晴らしい大会を企画して頂き、心より感謝申し上げます。参加者の皆様におかれましても、是非、活発な議論をお願い申し上げます。

今年は大分トリニータがJ1で活躍し、ラグビーW杯の試合が大分で5試合も開催され、大分はとても盛り上がりました。スポーツは社会を元気にするだけではなく、様々な、そして偉大な力があります。大分県スポーツ学会はDiversityを重視して連携・協力を促進し、スポーツの振興を通して、人々の幸福と持続可能な社会の実現を目指します。

最後になりましたが、ご後援頂きました学協会や企業のご発展と参加者の皆様のご健勝を祈念し、また、開催にあたりご尽力を賜りました役員や学会事務局の皆様に感謝申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

第11回学術大会 大会長

島田 達生 (大分大学 名誉教授 / 大分医学技術専門学校 校長)

安東 鉄男 (大分柔道整復師会 副会長 / 講道館柔道 7段)

Rugby World Cup 2019 in Japanは南アフリカの優勝で幕を閉じた。44日間にわたる熱戦は世界中、日本中そして大分県民をも興奮と感動を与えた。特にニュージーランド、オーストラリア、ウエールズ、フィジー等強豪の試合が組まれ、今までになかったラグビー熱がおこった。学生達に聞いてみた。“今回の大会で感じたことは何ですか？”と尋ねた。思いもよらず“英語力を高める必要性を感じた”という返答を数人からえた。市内を歩いていると、外国人から話しかけられたり、道や有名店を尋ねられたそうだと。

大分県スポーツ学会第11回学術大会を令和元年12月1日（日）にJ：COMホルトホール大分で開催するにあたり、大会長として一言ご挨拶申し上げます。

安東は幼いころ柔道を、島田はテニスに励み、現在も進行中である。なぜこんなにも長く続けられたのであろうか？答えは簡単。“好きだから”、“楽しいから”。

今スポーツができることに喜びを感じている。健康だからできるのだ。

今回の学会において、日本健康運動看護学会を立ち上げ、一般市民向け健康運動の普及活動や健康スポーツナースの養成を行っている。宮崎大学看護学科鶴田来美教授に特別講義を依頼した。盛り上がったラグビーワールドカップが終わると、いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピックに注目が向けられている。世界各地で種々の競技の前哨戦が始まっている。われらスポーツ学会において、「オリンピック・パラリンピックと大分」をテーマにシンポジウムを計画した。演者として、1. 柔道創始者でもある嘉納治五郎師範については安東鉄男7段しかいない。2. モントリオール柔道メダリスト倉本孝二師範の講和、3. リノにも出場し、東京パラリンピックに向けて奮闘している指宿立先生、4. 社会学的視点から「オリパラ」をとらえている谷口勇一教授。いずれも楽しみが一杯。会場からの発言を望みます。最後に「日本のパラリンピックの父」と言われるのは別府市医師、中村裕博士だった。

1964年東京オリンピックが開催された時、19歳。テレビにしがみついていた。私が選んだトップ5を挙げると、5位：ロマンに満ちた開会式、4位：男子体操団体金メダル、3位：柔道無差別、オランダのヘーシングが神永を破って優勝、2位：男子マラソン、裸足の王者アベベと奮闘した3位の円谷幸吉、1位：女子バレーボール金メダル、鬼の大松監督と東洋の魔女。

今回の第11回学術大会では、多くの一般演題が発表され、活発な討議がなされることでしょう。最後になりましたが、ご後援頂きました学校・社団法人や企業のご発展と参加者皆様のご健勝を祈念します。また、開催にあたりご尽力を賜りました役員や学会事務局の皆様に深謝いたします。

座長・発表者へのご案内

1. 口述発表者

(1) PPT差替えについて

受付時間内にウイルスチェック済のUSBメモリを受付にご提出ください。混乱を避けるために、できる限り余裕を持って受付にお越しください。

(2) 次発表者席について

自座の開始時には会場内にご着席され、1題前の発表者の登壇時に次発表者席に着いてください。

(3) 発表時間について

発表時間は7分、質疑応答2分です。時間厳守をお願いします。

2. ポスター発表者

(1) ポスター掲示について

受付後、開会式前までに会場内の該当パネルに、各自ポスターを掲示してください。

(2) 発表について

時間中はポスター前に立ち、質問等にお答えください。

(3) ポスター撤去について

閉会後に撤去してください。会場撤去時に残っているポスターは大会側で処分します。

3. 発表演題について

(1) 学術大会当日、表彰規程に基づき選考委員会による審査を行い、「優秀発表賞」を授与します。

(2) 後日、本学会機関誌「スポーツおおいた」に発表要旨を寄稿していただきます。

4. 口演座長

(1) 担当の前座開始時（前座長登壇時）には次座長席に着いてください。

発表時間は7分、質疑応答2分で進行をお願いします。

プログラム

開 会 式	10 : 00～
-------	----------

理事長 稲垣 敦 挨拶
大会長 島田 達生・安東 鉄男 挨拶

一般演題発表	10 : 05～11 : 55
--------	-----------------

セッションⅠ 10 : 05～11 : 00 (発表7分、質疑応答2分)

座長：平川 史子 (別府大学 食物栄養科学部 教授)

1. 高校男子陸上競技選手の摂取エネルギーと身体状況、貧血指標、食事状況、摂食行動との関係
原口亜里紗 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
2. スポーツ整形外科における「管理栄養士によるスポーツ栄養サポート」の可能性
ー 成長期スポーツ選手への介入に着目して ー 第2報
寺山 絵未 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター
3. 隠れ肥満者の身体計測値、骨密度、体力の特徴について
吉村 良孝 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
4. 肥満及び隠れ肥満者に対する運動食事介入指導が身体計測値、体力、血液性状に及ぼす影響について
佐藤 亜美 別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科
5. 本県アスリートにはエネルギー不足に起因すると考えられる鉄不足が多くみられる
～国体優秀選手メディカルチェックの結果から～
松田 貴雄 公益財団法人 大分県体育協会 スポーツ医科学委員会 メディカルサポート部会
独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター
6. 高校女子バスケットボール部は練習開始前から脱水だった
清永 康平 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター

セッションⅡ 11 : 00～11 : 55 (発表7分、質疑応答2分)

座長：保科 早苗 (独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター)

7. RWC medical team 歯科の視点
原田 裕教 日本ラグビー協会 メディカル委員会 歯科
8. 2019 ラグビーワールドカップ日本大会における認定救護ナースの活動報告
栗秋 良子 社会医療法人敬和会 相談役秘書
9. サプリメントメーカーに対して行った製品のドーピングに関する調査 (第2報)
中島 美紀 公益社団法人 大分県薬剤師会 学校保健・体育委員会
10. 成長期・思春期におけるスポーツ選手のヘモグロビン、フェリチン成長曲線の作製
松田 貴雄 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター

11. 当院におけるフィールドを活用したアスレティックリハビリテーションの取り組み

藤田 冴子 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター

12. 当院における小学生を対象として運動遊びを取り入れたリハビリテーション

渡邊 美奈 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター

ポスター発表・意見交換

12:00~12:20

コーディネーター（座長）：牧 健一郎（医療法人 大場整形外科 / 大分県スポーツ学会 理事）

1. 大分県理学療法士協会におけるスポーツ事業部の取り組みについて

小樋 雅隆 公益社団法人 大分県理学療法士協会 社会局 スポーツ事業部 / 医療法人 大場整形外科

2. スポーツダイバーシティ（SD）とは

森 照明 社会医療法人敬和会 相談役

3. 森林浴が車椅子利用者の自律神経活動に及ぼす影響：車椅子専用の森林浴コースを用いて

稲垣 敦 大分県立看護科学大学

4. 第21回 行橋～別府100キロウォーク救護活動報告

加藤 豪 公益社団法人 大分県柔道整復師会

5. ラグビーワールドカップ（RWC）2019ニュージーランド（NZ）代表のリカバリーケア

加藤 豪 公益社団法人 大分県柔道整復師会

6. チームマネジメントシステムを活用した傷害予防の取り組み

～メディカルマネジャー制度～

川野 達哉 医療法人 大場整形外科
大分スポーツリハビリテーションセンター
特定非営利活動法人 日本メディカルマネジャー協会（JMMA）

7. 当院における腰椎疲労骨折と腰椎分離症の発生率

石田 直也 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター

8. 成長期サッカー選手におけるアスレティックリハビリテーション

～当院で行った3年間の傷害調査をもとに～

吉田 渉 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター

9. 骨粗鬆症患者に対する当院の関わり

小樋 雅隆 医療法人 大場整形外科 / 大分スポーツリハビリテーションセンター

お昼休み

12:00~13:00

特別講演

13:00~14:30

座長：加藤 和信（大分県柔道整復師会 前会長）
森 照明（大分県スポーツ学会 顧問 / 社会医療法人敬和会 相談役）

スポーツと健康

1. スポーツ救護に特化した身体のしくみ

島田 達生 大分大学 名誉教授 / 大分医学技術専門学校 校長

2. スポーツによる地域住民の健康支援

鶴田 来美 宮崎大学医学部 地域・精神看護学講座 教授 / 日本健康運動看護学会 理事長

シンポジウム

14:40~17:00

座長：稲垣 敦（大分県スポーツ学会 理事長 / 大分県立看護科学大学 教授）
大場 俊二（大分県スポーツ学会 副理事長 / 医療法人 大場整形外科 院長）

オリンピック・パラリンピックと大分

シンポジスト

1. 日本のオリンピック初参加に尽力した嘉納治五郎

安東 鉄男 公益社団法人 大分県柔道整復師会 副会長 / 講道館柔道 7段

2. オリンピックと柔道

蔵本 孝二 1976 モントリオールオリンピック柔道 銀メダリスト

3. 東京2020パラリンピック競技大会に向けて

指宿 立 公立大学法人和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター

4. オリンピック・パラリンピック（東京2020）をめぐる今日的視座とは ースポーツ社会学の立場からー

谷口 勇一 大分大学 教授 / 大分県スポーツ学会 理事

閉会式

17:00~

次期大会長挨拶 保科 早苗 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター

特別講演



スポーツ救護に特化した身体のしくみ

島田 達生

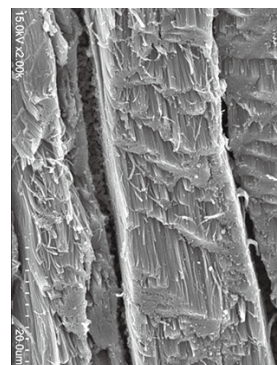
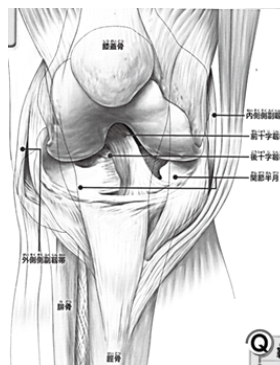
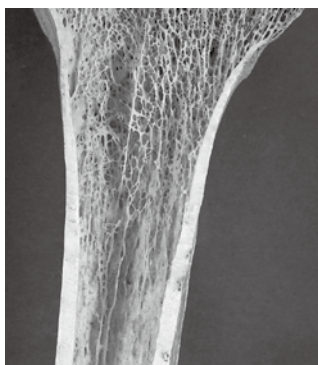
大分大学 名誉教授 / 大分医学技術専門学校 校長

スポーツは、本来楽しむための行動である。しかし、競技となると、お互いに勝敗が主目的となり、しばしば外傷、捻挫、骨折が生じ、救護が必要となる。色々な競技現場において、救護員は、必ずしも救急医療を専門にしているヒトばかりではない。そこで、スポーツ救護のための解剖生理学知識を以下の項目に分けて教授する。1. 身体の支持と運動、2. 情報の受容と伝達、3. 感覚、4. 身体機能の防御と適応、5. 血液と循環、6. 栄養の消化と吸収、7. 呼吸、排泄、体液の調節、8. 内臓機能の調節、9. 生殖と老化。

今回は、身体の支持と運動に関連する「骨格系」に主眼を置く。骨格は、200余個の骨からなる。骨格は、大きく体幹の骨格と体肢の骨格に分かれる。骨折は、一般に肋骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、腓骨など細くて長い骨に起こる。骨の断面をみると、外層から緻密質、海綿質、骨髓からなる。骨端には海綿質（骨梁）が発達し、

上からの重力に対して強い抵抗力をもっている。しかしながら、体幹の緻密質は、意外と薄く、海面質も乏しい。このことから、長骨は、横から衝撃に弱く、骨折に至る。

骨の連結には、不動連結（線維性連結）、弱可動連結（軟骨性連結）、可動連結（関節）があり、競技中に関節が最も障害を受ける。肩関節の脱臼が最も多く、競技によっては肘関節や肩鎖関節、指関節の脱臼がある。骨と骨を結び、関節を補強している靱帯も損傷・断裂があり、膝関節の側副靱帯と前十字靱帯や足の前距腓靱帯の断裂にしばしば遭遇する。靱帯は、組織学的に膠原線維が平行配列した平行密結合組織に属している。走査電子顕微鏡で観察すると、靱帯は、膠原細線維の束が平行配列していることが分かる。形態上横から強い衝撃を受けると、切れやすいという弱点がある。肉眼から、光学や電子顕微鏡によるミクロの目から、運動に関連する身体の仕組みを解説する。





スポーツによる地域住民の健康支援

鶴田 来美

宮崎大学医学部 地域・精神看護学講座 教授
(日本健康運動看護学会 理事長)

健康づくりは、かつては個人の主体的な努力に任されてきました。しかし、平成14年に公布された健康増進法には、「健康な生活習慣の重要性に対する関心と理解を深め、生涯にわたって、自らの健康状態を自覚するとともに、健康の増進に努める」ことを国民の責務であるとし、国や地方公共団体、健康増進事業実施者が、その個人の取組みを支援することが明記されています。健康志向の高まりとともに、地域では様々なスポーツイベントが開催されています。

従来より運動・スポーツは、健康の維持・増進だけでなく、生きがいや自己実現などの目的でも実践されてきました。しかし、国民全体の健康状態の改善が果たせていない状況下、健康の保持増進を個人の努力や責任に任せるのではなく、子どもから高齢者まであらゆる世代のすべての人々が安全かつ安心して運動・スポーツが実践できるようその仕組みづくりを行うこと、そしてその実践力を一人ひとりが身につけることができるような支援が必要と考えます。文科省が示すスポーツ振興基本計画の「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」に向けて、また、厚労省が示す健康日本21（第2次）の「健康寿命の延伸の実現」に向けて、さらに、内閣府が示す地方創生「将来にわたって活力ある日本社会を維持する」ためには、これらの施策を繋ぐこと、わかりやすく住民に伝え、住民を活動に参加・参画させることが重要であり、看護職はその役割を担うことができます。中でも、健康スポーツナース（日本健康運動看護学会認定）は、看護師としての専門的な知識や技術に運動の知識や技術を付加させ、単に怪我や事故時に適切

な処置を施すだけでなく、運動・スポーツに係わる多（他）職種を繋ぐことができ、誰もが安全かつ安心して運動実践できるよう、方向づけや環境整備を行うことができます。実際に、病院や介護保険施設等のみならず、全国各地で開催されているスポーツイベント、各種競技大会等で活躍をしています。しかし、看護学という単一の学問領域あるいは個人では達成できない課題が多くあります。そのため、複数の学問領域あるいは複数の個人、人びとによる協力が必要です。

運動・スポーツは、心身の健康の保持増進に重要な役割を果たすだけでなく、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与するものです。健康スポーツナースは、健康で幸せな社会を構築するためのヘルスプロモーション活動を実践する看護職ともいえます。

現在看護職には病気や障がいとともに生きる「暮らしの場」での看護、治療や回復のための医療機関での看護、地域住民の健康増進・疾病予防・介護予防をめざす保健活動などに加え、「生活」と保健・医療・福祉をつなぎ、地域で暮らす全ての人々を支える健康な社会の醸成にも力を発揮することが求められています。しかしその貢献が必ずしも評価されるとは限りません。私たち健康スポーツナースが、スポーツによる地域住民の健康支援において人びとから評価されるよう、なすべき役割と課題についてお話ししたいと思います。

シンポジウム



日本のオリンピック初参加に尽力した 嘉納治五郎

安東 鉄男

公益社団法人 大分県柔道整復師会 副会長
講道館柔道 7段

1882年講道館柔道を創始したことで知られる嘉納治五郎は、東京高等師範学校（現筑波大学）校長を25年間勤めた。1909年にアジア初の国際オリンピック委員会（IOC）委員となり、1912年、第5回ストックホルムオリンピックに幾多の困難を乗り越え、僅か陸上競技2名の選手を率い初出場させる。2名ともに大敗北という結果に終わる。しかし、それは、わが国スポーツ界の「黎明の鐘」となったのである。

嘉納は、1860年兵庫県東灘区で生まれる。1877年、東京大学在学中、天神真楊流柔術に入門、後に起倒流柔術も学ぶ。天神真楊流は、当身技（突き、蹴り）や関節技、絞め技など相手を仕留める敵への殺傷や捕縛を目的とし、危険性が高くその技法を総称して「殺法」と呼ばれていた。蘇生法や外傷の治療法である「活法」にも優れていた。小説「姿三四郎」のモデルで、小兵ながら後に講道館のエースとして得意技「山嵐」で活躍した天才西郷四郎も同流派出身である。

教育者としての嘉納は、教育及び柔道修行の目的に「精力善用」「自他共栄」を掲げた。精力は善い行為として発揮されるべきもので、他者とともにお互いに融和協調して共に生き栄えることが大切であり、相手はむしろ自らの向上に欠くことのできない存在、パートナーである。新しく創始した講道館柔道には教育的価値が非常に高いと説いた。

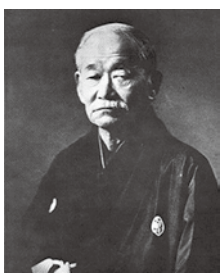
1894年、クーベルタン男爵はフェアプレイ精神・友情・連帯・平和社会の構築を掲げIOCを設立。1896年第1回アテネオリンピックが開催される。クーベルタン男爵は嘉納の教育者としての考えに共感し、嘉納にIOC委員の要請を

した。

また、嘉納は国内外で教育及びスポーツの発展に尽力すると同時に、接骨術を担っていた柔道家にも手を差し伸べた。8世紀より伝承されてきた接骨術に対し、1874年（明治7年）、明治政府の医制改革により、「日本の医療を西洋医学に一本化する」という方針が出された。太古から明治初期まで我が国の医療の一端を担ってきた接骨術が、1885年（明治18年）に禁止された。大正期に入り、柔道家で接骨師の萩原七郎は柔道接骨公認期成会を結成し、萩原の師で講道館最初の十段となった山下義韶、天神真楊流門下で東京帝国大学医師の三浦謹之助博士、同大学整形外科医師の金井良太郎博士、日露戦争の日本海海戦で世界に名を馳せた東郷平八郎元帥等のバックアップがあった。そして西洋医学も取り入れて、1920年（大正9年）「柔道の教授を為す者において打撲、捻挫、脱臼、骨折……」という内務省令が発せられ、柔道整復術が公認された。嘉納講道館の強力な支援によるところが大きかった。

嘉納が柔術諸流派の「殺法」の長を取り、創始した講道館柔道は「競技スポーツ」として、「活法」は「柔道整復」として発展している。

嘉納はIOC委員となり、大日本体育協会を設立し、1940年（昭和15年）東京オリンピック誘致に成功したが、第2次世界大戦のため中止となった。しかし、その遺志は引き継がれ、1964年（昭和39年）東京大会開催、そしていよいよ「TOKYO2020」を迎える。





オリンピックと柔道

蔵本 孝二

1976 モントリオールオリンピック柔道 銀メダリスト

柔道をはじめたのは、日田市内の小学校4年の時である。

1964年の東京オリンピック無差別級決勝で日本の神永選手が、オランダのヘーシンク選手に敗れたことに非常にショックを受けた。

このことに刺激を受けて、日々柔道に打ち込んだ。名門である久留米市立南筑高校、そして拓殖大学の門をたたいた。同大学柔道部師範では全日本選手権大会を13連覇し、15年間無敗のまま現役を退いた木村政彦先生に師事し、同師範の下で猛練習に耐えた。鍛錬した成果で1973年全日本学生柔道選手権大会軽量級優勝という栄誉を結実した。

卒業後は神奈川県警に就職、74年のアジア選手権大会軽

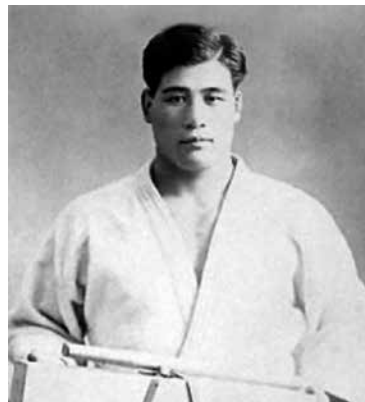
中量級で優勝。同年から全日本選抜柔道体重別選手権大会軽中量級（70キロ以下）において3連覇を達成し、モントリオールオリンピック出場権を獲得した。同五輪ではルーマニアのコマネチ選手が、体操競技で10点満点を連発し、世界を驚かせた。

現在のオリンピックは華やかにショーアップされているが、当時は、経済的にも精神的、体力的にも過酷であったことが、思い出される。

古今のオリンピックスポーツの状況を検証し、より魅力あるスポーツになれば幸いです。



筆者の背負い投げ



「柔道の鬼」木村政彦



「白い妖精」コマネチ



東京2020パラリンピック競技大会に向けて

指宿 立

公立大学法人和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター

東京2020オリンピック競技大会が2020年7月22日から8月9日まで、同パラリンピック競技大会（以下東京パラリンピック）が8月25日から9月6日まで開催されます。国際オリンピック委員会は2000年に、オリンピック開催地はパラリンピックも開催するよう義務付け2008年北京大会よりオリンピック・パラリンピックとして開催されるようになりました。

わが国における障害者のスポーツ施策は、前回の1964年東京パラリンピック大会（正式名称は第13回国際ストーク・マンデビル競技大会）開催を契機に、障害者の社会参加促進のための施策の一つとして位置付けられてきました。しかし、2014年（平成26年）度より障害者のスポーツ

は、2011年（平成23年）8月に施行されたスポーツ基本法を背景に厚生労働省から文部科学省へ移管し、2015年10月スポーツ庁設置後は同庁の管轄となりました。

1964年前回大会には9競技144種目に世界21ヶ国から378名が出場し、大分県からは5競技に12名が出場しています。また今回の東京パラリンピックには22競技538種目に4400名の選手が出場する予定です。

2016年リオ大会では史上初金メダルゼロとなり（表参照）、今大会も厳しい状況が予想されます。シンポジウムでは東京パラリンピックの概要と日本の現状および期待される競技や選手について紹介し「オリンピック・パラリンピックと大分」について討論したいと考えています。

表 リオ2016パラリンピック大会 金メダルランキング

NPC	金	銀	銅
1. 中国	107	81	51
2. イギリス	64	39	44
3. ウクライナ	41	37	39
4. アメリカ	40	44	31
5. オーストラリア	22	30	29
20. 韓国	7	11	17
64. 日本	0	10	14



オリンピック・パラリンピック（東京2020） をめぐる今日的視座とは ー スポーツ社会学の立場から ー

谷口 勇一

大分大学 教授 / 大分県スポーツ学会 理事

本稿を執筆しているのが10月31日（2019年）である。東京2020まで1年を切ったわけであるが、同時に国内においては、ラグビーワールドカップを取りまく熱気と興奮がまだまだ冷めやらない。来年に迫った東京2020もまた、私たちにおおいなる熱気と興奮をもたらしてくれるであろう。

◆国際スポーツイベントの社会学

イギリスの社会学者であり、「スポーツ・ツーリズム」の原点ともいべき思想を世に問うたジョン・アーリは下記のような主張を為した。すなわち、「（観光客の）受け入れ側は観光客のまなざしを意識することを通じて、自らの文化・伝統が何であるのかを改めて認識するようになる。それはローカルなアイデンティティを復活させるきっかけとなるわけである」（ジョン・アーリ、1990）。そのことは「再帰性」なる社会学的概念として提唱されるに至った。このたびのラグビーワールドカップの大分開催に伴い、多くの外国人ファンの来県をみた。彼ら来訪者（観光客）の存在は、私たちに対して「大分らしさ」を再認識させる契機となり得た、との理解が可能となろう。東京2020の開催は、私たち日本人を取りまく文化・伝統、さらにはアイデンティティを再認識させるはずである。国際スポーツイベント開催の意味性（価値）はそこにこそ見出すべきなのである。

◆東京2020に向けられるべき社会学的視座

1940年の東京五輪を命懸けで誘致した嘉納治五郎先生は、上記したような国際スポーツイベントが有する再帰性の存在を当時から強く認識されていたのであろう。わが国にとって2回目となるオリンピック・パラリンピック大会は、いかなる再帰性とレガシーをもたらすのか。いや、もたらすべきなのか。シンポジウムでは2つの視座をもって論じてみたいと思う。すなわち、1）東京2020の開催に伴い私たちは数多くの「波及効果」の恩恵に授かることとなる。なかでも「文化としてのスポーツ」の価値はいかにして享受可能となるのか、2）社会的関心度を高めたパラリンピック―障がい者スポーツはわが国のスポーツ界にいかなる構造変革をもたらし得るのか、である。

◆東京2020と大分

上記した2つ目の視座は重要となる。マラソン・競歩会場の札幌移転に関する議論はパラリンピック種目においてなお言及されるべきはすなわちに見落とされている。制度疲労の状態に近いスポーツ界において、パラリンピックは「有機的社会」（エミール・デュルケム、1893）―道徳的な性質を帯びる社会の再形成に寄与できるはずである。障がい者スポーツの「メッカ」である大分県においては、その機運を高める役割を担うべきであろう。

（文献）

ジョン・アーリ、加太宏邦訳（1990=1995）「観光のまなざし―現代社会におけるレジャーと旅行」、法政大学出版局。
エミール・デュルケム、田原音和訳（1893=2017）「社会分業論」、ちくま学芸文庫。

一般演題発表

1 高校男子陸上競技選手の摂取エネルギーと身体状況、貧血指標、食事状況、摂食行動との関係

○原口 亜里紗、平川 史子

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

【目的】

本調査では、女性アスリートの三主徴については多く研究されているが、男性アスリートにもエネルギー不足による身体への影響が起り得るのではないかと考え、試合期とトレーニング期で摂取エネルギーと身体状況、食事状況、貧血性状、摂食行動との関連を検討した。

【方法】

N 高校陸上部員男子15名を対象にH30年7月（試合期）とH30年12月（トレーニング期）に身体状況調査、栄養素等摂取状況調査（摂取食事記録法）、生活習慣調査、血液検査（貧血指標）を行った。

【結果】

試合期でエネルギー摂取量とフェリチンに正の相関が見られ、トレーニング期ではエネルギー摂取量と脂肪量に負の相関、摂食行動オーラルで正の相関が見られた。

【考察】

エネルギー摂取量が多いほど脂肪量が少なく、フェリチン値が高いことから十分なエネルギー摂取は筋肉量の増加や潜在性鉄欠乏の改善に繋がることが考えられた。しかし、エネルギー摂取量が多いほど摂食行動オーラルの点数が高くなり、エネルギーを摂取しなければならない反面、肥満への恐怖心もあり摂食行動の矛盾が見られた。

2 スポーツ整形外科における「管理栄養士による スポーツ栄養サポート」の可能性 ー成長期スポーツ選手への介入に着目してー第2報

○寺山 絵未、大場 俊二、高司 博美

医療法人 大場整形外科

大分スポーツリハビリテーションセンター

【目的】

当院はスポーツ整形外科の特色を活かし、医師や看護師・理学療法士と連携した「管理栄養士による成長期スポーツ栄養サポート」を展開している。

第10回当学会にて発表した内容から、発展させた取り組みを行ったので報告する。

【対象・方法】

2019年1月～10月の期間、当院にて疲労骨折の診断を受けた・又は医師や理学療法士により介入が必要と判断した成長期スポーツ選手に栄養アンケートを実施。管理栄養士が10分の無料相談・レクチャーの後、希望する場合は予約制の有料サポートとして継続した。

有料サポートでは「アスリート採血」の体制を整え、選手や保護者のニーズに合わせ対応した。また、科学的データと栄養を結び付けた、実践的な説明を対象者へ行った。

【結果・考察】

期間中、アスリート採血を希望し実施したのは17名であった。

個別対応の結果、「必要エネルギー・栄養素量確保によるスポーツ障害・貧血対策」「体組成改善」「サプリメントの過剰摂取防止」「試合時対策による競技力向上」などの効果が認められた。

科学的データに基づいた栄養相談が受けられる環境は、成長期の選手や保護者にとって外傷・障害予防や早期復帰、競技力向上に繋がると考えられる。

今後も競技特性や様々な事情を抱える選手・保護者の立場に合わせ、より安心して受けられるサポート体制・運営に努めていきたい。

3 隠れ肥満者の身体計測値、骨密度、体力の特徴について

○吉村 良孝、佐藤 亜美

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

【目的】

本研究の目的は、女子大学生の隠れ肥満者の身体計測値、骨密度、体力の特徴について検討することである。

【方法】

被験者は女子大学生77名のうち、BMI $25\text{kg}/\text{m}^2$ 未満で体脂肪率が30%以上である者16名である。隠れ肥満者と同程度のBMIを示す17名を対照群とした。測定項目は、身体計測、骨密度、体力である。

【結果】

隠れ肥満群の体脂肪率、脂肪量、収縮期血圧が対照群のそれよりも有意な高値を示した。隠れ肥満群のスティフネス、%YAM、SOSが対照群のそれよりも有意な低値を示した。隠れ肥満群の閉眼片足立ち時間が対照群のそれよりも有意な低値を示した。

【考察】

隠れ肥満群に対しては、運動・食事療法によりその改善を目指すことが重要である。また、若年女性においては、BMIを用いた肥満の判定のみではなく、体脂肪率を含めた身体計測値と共に血圧、骨密度などの測定も行って、健康維持増進に留意する必要があると思われる。

4 肥満及び隠れ肥満者に対する運動食事介入指導が身体計測値、体力、血液性状に及ぼす影響について

○佐藤 亜美、吉村 良孝

別府大学 食物栄養科学部 食物栄養学科

【目的】

本研究の目的は、女子大学生の肥満及び隠れ肥満者に対して行った運動食事介入指導が身体計測値、体力、血液性状に及ぼす影響について検討することである。

【方法】

被験者は、健康的な女子大学生で肥満及び隠れ肥満に該当する6名である。測定項目は、身体計測、体力、血液性状である。血液性状は空腹時のインスリンと血糖、HOMA-IR、HbA1cである。

【結果】

8週間前後では、体重、BMI、体脂肪率、脂肪量が有意に低下し、S-30、水溶性食物繊維摂取量が有意に増加した。血液性状には有意差はなかったが、HOMA-IRが基準値を上回っていた3名の内2名は改善した。

【考察】

本研究で行ったレジスタンストレーニングと食事指導が除脂肪体重の維持や、インスリン抵抗性の改善に影響を及ぼしたのではないかと考えられた。本研究で実施した内容は、肥満及び隠れ肥満者を対象とした取り組みやすい指導であり、今後も継続したい。

5 本県アスリートにはエネルギー不足に起因すると考えられる鉄不足が多くみられる ～国体優秀選手メディカルチェックの結果から～

○松田 貴雄^{1, 2)}、渡邊 達也^{1, 3)}、久保 徳彦^{1, 4)}、
井野 章^{1, 5)}、森山 秀一^{1, 6)}、糸永 沙希^{1, 7)}、
原田 拓也^{1, 8)}、松尾 成真^{1, 9)}、寺山 絵未^{1, 10)}、
松本 善企^{1, 11)}、内田 和宏^{1, 12)}

- 1) 公益財団法人 大分県体育協会 スポーツ医科学委員会 メディカルサポート部会
- 2) 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター
- 3) 公益財団法人 大分県体育協会
- 4) 独立行政法人国立病院機構 別府医療センター
- 5) しろくま歯科矯正歯科
- 6) 山田整形外科クリニック
- 7) 社会医療法人恵愛会 大分中村病院
- 8) 国立大学医学部付属病院
- 9) 大分県薬剤師会 学校保健・体育委員会
- 10) 医療法人 大場整形外科
- 11) 大分市医師会立アルメイダ病院
- 12) 医療法人輝心会 大分循環器病院

【目的】

公益財団法人大分県体育協会スポーツ医科学委員会のメディカルサポート部会では内科健診を今年度からアスリートの貧血にターゲットをしばってメディカルチェック（以下:MC）を行った。結果を報告するとともに今後のMCの在り方について検討する。

【方法】

県内の国体選手の種目、男子71名、女子66名の計137名を対象に県内各地の16の病院にて随時血液採取を行い、同じ検査会社に委託して検査を行った。貧血指標の通常のヘモグロビン測定に加えて鉄不足の指標としてフェリチン、エネルギー不足の指標としてテストステロンの測定を行った。整形外科的MCが1種目行われたので、その結果と合わせて検討した。

【結果】

男子71名のうち、要受診レベルの貧血の基準としたHb13.5g/dL未満が4名、フェリチン20ng/mL未満が12名（16.9%）であった。女子66名ではHb11.5g/dL未満は1名であったがフェリチン12.0ng/mL未満が20名と30.3%を占めていた。男子のテストステロンの低下が認められた選手はフェリチンが低く、難治性疲労骨折であった。女子ではテストステロン0.2ng/mL未満5名中3名はフェリチンも低下しており、腰痛を認めた。

【考察】

これまで本県で行われてきたMCでは内科的・整形外科的に分かれて行われ、その結果についてはほとんど利用、検討が行われてこなかった。今回貧血の検討を目的に血液検査のみとしたことで、すみやかなフィードバックが可能となった。潜在性の貧血と考えられるフェリチン低値の選手が多く存在することがわかり、また、整形外科的なMC結果を併せて検討すると整形外科的なトラブルを抱えている選手が多い印象が得られた。整形外科的MCを有効に行うためにも血液検査を先行して行うことは有効ではないかと考えられた。

6 高校女子バスケットボール部は練習開始前から脱水だった

○清永 康平¹⁾、坂本 真実哉²⁾、松田 貴雄¹⁾

1) 独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター

2) 大分県教育庁 体育保健課 学校体育班

【目的】

スポーツ庁の「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(2008)に基づき、本県においても部活動日数・時間の軽減が提案されている。これについて本年度、学校部活充実支援事業の一環としてスポーツ医・科学的視点における知見から科学的トレーニングの積極的導入により、短時間で効果が得られる指導が必要とされる。

本研究では高校女子バスケットボール部の生徒を対象に練習前後の脱水状態の有無を把握し、効率的・効果的な活動の実践に向けた取り組みを検討していく。

【対象と方法】

県立高校女子バスケットボール部18名を対象に練習前後に尿を約20ml採取し、指導医師の元、ポケット尿比重屈折計PAL-09Sを使用し尿比重の測定を行ったと同時に、練習前の体組成測定、AS-4Fa動体視力計による動体視力測定を行った。

【結果】

練習前における尿比重は 1.027 ± 0.004 (平均 $\pm$ 標準偏差) で練習前の時点ですでに脱水状態であった。練習後における尿比重は 1.029 ± 0.003 であり、練習後の尿比重が優位に高い傾向がみられた ($p < 0.05$)。

【考察】

今回計測を実施したのは10月で最高気温が21℃前後の夕方と比較的涼しい環境であった。尿比重では1.020を超える対象者が18名中17名と練習前より脱水であったことから、部活動は放課後に行われ、昼食以降、補食や水分摂取が行われないことがないことも多い。効率的な部活動を行うには練習中、練習後に加えて練習前から脱水を予防していくことが必要と考えられた。

7 RWC medical team 歯科の視点

○原田 裕教

日本ラグビー協会 メディカル委員会 歯科

「RWC2019日本」は日本の予想外の快進撃により日本中を興奮の渦に巻き込みながら盛大にその幕を下ろした。この激しくぶつかり合うcollision sportsに魅了されたのだが、様々な外傷は付き物になっている。World Rugbyから要求された医療サービスは、選手・match official・TGP・観客救護と多岐に渡っていた。骨折等の対応があったが大きな混乱もなくmedical teamはその役を終えた。Medicalの役割は選手を守るための正確な診断力とされ、いかに早急に次の対応に移るかにかかっている。そこにはsecondary contactとして感染症の問題もある。今回、歯科・口腔外科医としてmedical teamに参加しPlayer Welfareの重要性を経験する事ができた。歯科は日々口腔常在菌と戦いながら、感染症を身近に感じているが、医療に従事する方々は当然の基本であるということを周知している項目でもある。しかし、基本であるが故に配慮が欠ける瞬間を目にする事もある。One teamとして「感染症のNudge」を提唱しながら多岐に渡る医療の質を少しでも向上できるように参加する意義を考えていた。今回の大会において、歯科関連の報告は下顎骨骨折症例が1例、口腔内縫合処置は1症例とある。歯牙破折や歯牙脱臼は報告されていない。Medical team内での歯科の出番は必ずしも多くはないが、診断力・判断力を備えて選手を見守るためのスキルは重要であると考えている。今回、歯科的「感染症のNudge」について報告する。

8 2019ラグビーワールドカップ日本大会における 認定救護ナースの活動報告

○栗秋 良子¹⁾、植山 茂宏²⁾、森 照明³⁾

1) 社会医療法人敬和会 相談役秘書

2) 府内耳鼻咽喉科

3) 社会医療法人敬和会 相談役

【目的】

県スポーツ学会は学会認定スポーツ救護ナースを2019ラグビーワールドカップ日本大会（2019RWC）大分会場に5日間派遣した。その活躍を紹介する。

【方法】

2019RWCに認定スポーツ救護ナースをフィールド内外合わせて延べ人数97名派遣した。中でもフィールド内の20名においては、応募者との電話面談・コンタクトスポーツ救護経験者を選びすぐり派遣した。

【結果】

今回高い評価を得ている学会認定救護ナースの派遣が決定した。特にフィールド内では40,000人の観客対応を3つの救護室で医師と救護ナース各1名ずつ、選手医務室は各科医師と連携して救護ナースは1名で活動した。

【考察】

スポーツにおける救護の専門ナースとして適切な判断処置が出来る実践を身に付けた人材として2019RWCでの活動は貴重な経験となり、今後さらに活躍を充実させたいと考えている。

9 サプリメントメーカーに対して行った製品のドーピングに関する調査（第2報）

○中島 美紀¹⁾、河村 聡志¹⁾、松尾 成真¹⁾、伊藤 英明¹⁾、
首藤 典利²⁾、伊藤 寿和子¹⁾、山田 雅也¹⁾、
荘司 一茂¹⁾、佐藤 英隆¹⁾、友成 朗¹⁾、安東 哲也¹⁾

1) 公益社団法人 大分県薬剤師会 学校保健・体育委員会

2) 公益社団法人 大分県薬剤師会 薬事情報室

【目的】

サプリメントへの禁止物質混入によるドーピング違反事例が毎年発生している。一方、ドーピングリスクがないことの保証はきわめて難しい。そのため、2019年4月に「スポーツにおけるサプリメントの製品情報公開の枠組みに関するガイドライン」（以下、GL）が発表された。

公益社団法人大分県薬剤師会学校保健・体育委員会（以下、当会）では、2017年にサプリメント製造会社に対しアスリートの製品使用可否についてアンケート調査を行った（スポーツおおい、第3号、2018.12）。今回、GL発表を受け、サプリメント製造会社へアスリートの製品使用可否、GL対応について再度、アンケートを行ったのでその概要を報告する。

【方法】

2017年にアンケート調査を行ったサプリメント製造会社12社を対象とした。2019年5月に問い合わせフォーム、電話にて下記内容を問い合わせた。

問1. 貴社製品はGLを満たしているか。

問2. 第三者機関による認証取得を行っているか。

問3. GLを満たしていない場合、満たすための準備があるか。

【結果】

サプリメント製造会社12社中11社から回答を得た。

問1. 満たしている5社。

問2. 認証取得済4社。

問3. 準備中6社中2社。

【考察】

GL発表を受け、サプリメント製造会社は全社対応しているものと考えられたが、第三者機関による認証取得には多額の費用を要し対応不可能と回答した会社もあった。アスリートの服用を想定していないサプリメント製造会社も存在した。

どのサプリメント分析認証プログラムもドーピング規定に抵触していないことを100%保証するものではない。しかし、今後、アスリートがサプリメントを選択する際、認証取得が一つの基準となるため、サプリメント製造会社はこの点を考慮した製品安全性確保を行っていく必要があると考えられる。

10 成長期・思春期におけるスポーツ選手の ヘモグロビン、フェリチン成長曲線の作製

○松田 貴雄、清永 康平

独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター

【目的】

成長期・思春期は成長を伴い、特に身長が増大の著しい成長スパート時期ではアスリートにとって持久性などに影響を及ぼす最大酸素摂取量はパフォーマンスに大きく関わるため、それに影響する貧血、鉄不足については正確な指標が必要と考えられる。このため成長に伴うフェリチンの変化について年齢毎の成長曲線を作製する。

【方法】

西別府病院スポーツ医学センターを受診した8歳から19歳の男女アスリート812名(男子689名、女子123名)について、それぞれ年齢毎の測定値を用いて平均と標準偏差を出した。

【結果】

男子は年齢を増すごとにヘモグロビン、フェリチンともに増加が認められた。女子も成長期と比べて思春期ではやや増加したものの男子に比べるとほぼ一定であった。

【考察】

これまで男女のテストステロンの性差について報告してきた。成長スパート前の10歳以下では男女ほぼ同じレベルではあるが、成長スパート後、女子との乖離がみられ、テストステロンは急増する。それと同様にヘモグロビンも増加に伴い、フェリチンも性差を認め、ほぼ女子が同じレベルであるのに対して男子では増加していくことが分かった。男子はテストステロンの増加に伴う増加と推測され、年齢に応じた基準範囲の設定が必要と思われた。

11 当院におけるフィールドを活用した アスレティックリハビリテーションの取り組み

○藤田 冴子、大場 俊二、川野 達哉

医療法人 大場整形外科

大分スポーツリハビリテーションセンター

はじめに、スポーツ傷害から、早期により良い状態でスポーツ復帰をする為には、スポーツ特性を考慮したアスレティックリハビリテーション（以下アスリハ）は必須である。

当院は大分スポーツリハビリテーションセンターを併設し人工芝のフィールドを有し、理学療法士と健康運動指導士が連携してアスリハを展開している。

当院ではX-P・超音波・MRI・CTなどの検査を用いた診断確定後にアスリハを施行する。まず、理学療法士が腫脹などの炎症所見や可動域、筋力の評価を行ったうえで、柔軟性獲得を目的としたストレッチや筋力・筋出力・筋持久力向上を目的とするOKCでの筋力トレーニングから実施する。腫脹・圧痛など炎症兆候が消失し、CKCトレーニングにて疼痛が無ければフィールドにて動作トレーニングを行い、そこでも疼痛が無ければジョグ、ラダーを用いたアジリティートレーニングへ移行する。患者のニーズに応じて野球やサッカーなど競技ごとに専門のスタッフがフォームチェックを行い、競技復帰をサポートしている。

今回、当院の特色である人工芝フィールドを活用した、成長期スポーツ選手におけるアスリハの取り組みを行い、若干の知見を得たので報告する。

12 当院における小学生を対象として 運動遊びを取り入れたリハビリテーション

○渡邊 美奈、大場 俊二、川野 達哉

医療法人 大場整形外科

大分スポーツリハビリテーションセンター

当院は学生・スポーツ選手を中心に行うスポーツ整形（アスレティックリハビリテーション以下アスリハ）と中高齢者を中心に行う一般整形（運動療法）を特徴とした有床診療所である。

スポーツ患者の中心は中・高校生だが、小学校低学年の子供たちも数多く通院している。通常、リハビリメニューの多くは症状改善の為には必要不可欠なメニューばかりではあるが、子ども達が楽しく取り組める内容が少ないのが現状である。

当院の特徴の1つとしてリハビリは理学療法士による理学療法のみならず、併設している「大分スポーツリハビリテーションセンター 以下OSR」での健康運動指導士によるアスリハや運動療法も行なっており、今回子供達のリハビリの効果を上げるため、また運動が苦手な子供達に楽しく運動に親しんでもらう事を目的として、人工芝のフィールドを活用した子どもの運動教室を開催した。教室では子供でも取り組みやすい運動遊びを中心とし、患者の場合はスクワットなどの荷重トレーニングが疼痛なく可能になっている事を参加条件とした。

この当院独自の取り組みを通じて若干の知見を得たので、症例を提示して報告する。

ポスター発表

1 大分県理学療法士協会における スポーツ事業部の取り組みについて

○小樋 雅隆、藤野 毅

公益社団法人 大分県理学療法士協会 社会局 スポーツ事業部
医療法人 大場整形外科

（公社）大分県理学療法士協会のスポーツ事業部はスポーツ支援課（以下、支援課）とスポーツリハ推進課（以下、推進課）で構成されており、支援課はスポーツ選手へのサポート、推進課は協会員対象の研修会の開催を主に担っている。今回、支援課が行っているトレーナーサポートの取り組みについてまとめた。

トレーナーサポートでは全国高等学校野球・サッカー選手権大分大会でのサポートを定期的に行っている。その際、事前勉強会で知識を共有し、実際に現場で挙げた問題点や改善点を当事業部で話し合い、今後の取り組みに活かせるように努めている。これらの活動の流れ、サポートや講義の参加状況、今後の課題を報告する。

2 スポーツダイバーシティ (SD) とは

○森 照明¹⁾、栗秋 良子²⁾、谷口 勇一³⁾

1) 社会医療法人敬和会 相談役

2) 社会医療法人敬和会 相談役秘書

3) 大分大学 教育学部

【目的】

日本はまもなく国民の3人に1人は65歳以上という超高齢社会を迎える。多様性の受容（ダイバーシティ・インクルージョン）とダイバーシティ・マネジメントなくしては社会が成り立ってゆかなくなる。

スポーツ界においても同じであり、スポーツダイバーシティ（SD）の新概念導入について解説する。

【方法】

- ①定義：スポーツ領域においてダイバーシティ（多様性）を受容し、個人および組織・団体の活性化と新しい価値創造と連帯を生み出す新しい概念
- ②目的：SDを導入することで、個人および団体のイノベーションを推進し、さらなるスポーツの普及発展とスポーツ文化の醸成、スポーツ学の向上を図り、人類の健康と福祉に貢献することを目的とする

【結果と考察】

新概念導入によりスポーツに関するあらゆる分野・領域の質と生産性の向上、緊密な連帯が生まれ、飛躍的な発展が期待できると考えている（関係性をポスターに図示する）。

3 森林浴が車椅子利用者の自律神経活動に及ぼす影響： 車椅子専用の森林浴コースを用いて

○稲垣 敦

大分県立看護科学大学

近年、森林の最後の活用手段として森林浴が注目され、その効果が生理学的及び心理学的に検証されてきた。しかし、そのほとんどは一般人を対象とした研究で、車椅子利用者を対象にした研究はほとんどない。この理由として、多くの森林浴コースが車椅子では利用しにくいことがあげられる。そこで、本研究では、車椅子利用者5名（男性25-56歳）が車椅子専用の森林浴コースを利用した時の自律神経活動の変化を心拍変動（HRV）で評価した。この結果、交感神経活動（LF/HF）の抑制と副交感神経活動（HF）の亢進、自律神経バランスの改善が認められ、自律神経活動も活発になった。以上の結果から、車椅子専用の森林浴コースの利用には、車椅子利用者のストレス低減効果があると考えられる。

4 第21回 行橋～別府 100キロウォーク救護活動報告

○加藤 豪、江崎 博明、野田 光広

公益社団法人 大分県柔道整復師会

【はじめに】

行橋～別府100キロウォーク実行委員会より大分県速見郡日出町保険福祉センターチェックポイントで令和元年10月13日（日）4：00～12：00まで救護活動の依頼があり公益社団法人大分県柔道整復師会13名で救護活動を行った。

【目的】

100キロウォーク参加者を完歩させる事。

【対象】

100キロウォーク参加者、日出町保険福祉センターチェックポイントで救護、処置を必要とされる方。

【方法】

施術ベッド7台、テーピング、角綿、消毒液、ペーパー等を用いて救護、処置を行う。痛めた筋肉への施術、腰部、股関節、膝関節、足関節へのテーピングも必要に応じて行った。その際に完歩させる為の、声掛けや会話での精神的安心感の提供も行った。

【結果】

第19回 行橋～別府100キロウォークでは229名の救護であったが、今回ではそれを上回る250名の救護を行う事ができた。（第20回は台風の為中止）

【まとめ】

（公社）大分県柔道整復師会では、上記の活動以外にも毎年行われている他の救護活動以外に、公益活動の一環として大分北部豪雨（2012）を始め熊本地震（2016）にも会員の災害派遣を実行しているが、スポーツの救護活動・コンディショニング・ケア活動を経て、柔道整復師、個人のボランティア活動の意識育成と参加を勧めている。

また近年、日本各地での大規模自然災害が多発しているが、災害時や非常時の際にも即時に対応し県民や行政の要請に専門的な知識とタフな精神を携えた柔道整復師の養成を目標として活動している。

5 ラグビーワールドカップ (RWC) 2019 ニュージーランド (NZ) 代表のリカバリーケア

○加藤 豪、江崎 博明、野田 光広

公益社団法人 大分県柔道整復師会

【はじめに】

2018年10月にラグビーワールドカップ2019大分県推進課より本会にRWC2019大分大会に対する協力要請があった。

当初、NZより9月26日及び29日2日間、延べ18名セラピストの依頼があり、その後追加要請にて10月3日の10名の依頼があった。

【経過】

事前に本会主催のスポーツケアセラピー講習会を技術情報の共有のため開催した。

参加団体：本会・宮崎県柔道整復師会・熊本県柔道整復師会 総数45名

講習内容：フィジー代表のコンディショニング及びケアを務める講師（本会会員）

にケア及びオイルケアの指導を受けた。

ケアの注意事項や禁止事項のコンプライアンス管理指導も同時に受けた。

【結果】

本会としては当初、NZより9月26日及び29日2日間、延べ18名の依頼がありNZチームから評判が良く追加要請があり10月3日の10名のケアを行った。延べ人数84名。

【考察】

本会は国体を始め各種スポーツ競技に救護・コンディショニング等の協力をしているがRWCは世界大会の中でも特に人気のスポーツでありセキュリティが厳しくセラピー会場等が事前に漏れると天井にカメラ等のスパイ行動があるとの事で関係者にも一様に直前にならないと情報が入らなかった。

RWCトップチームからの厳重な箝口令の為に大分県ラグビー協会も受け入れの準備は遅れて本会の準備にも影響を及ぼした。

しかし、本会は即日対応可能なケアセラピストの登録会員数が大分県会員・準会員42名・県外会員9名と、平日でも即対応できる団体であることが認知されたこと、またこのことが来年の2020東京オリンピック・パラリンピックへのステップになると考える。

6 チームマネジメントシステムを活用した 傷害予防の取り組み ～メディカルマネージャー制度～

○川野 達哉、大場 俊二、藤野 毅、相馬 大樹、
石田 直也

医療法人 大場整形外科

大分スポーツリハビリテーションセンター

特定非営利活動法人 日本メディカルマネージャー協会（JMMA）

はじめに、スポーツ傷害の予防・防止の重要性やスポーツ現場への啓蒙活動の必要性は以前から指摘されている。しかし、有効なシステムはなくスポーツ傷害の防止は進んでいないのが現状である。

そこで当院では、2003年よりスポーツ傷害防止を目的にメディカルマネージャー（以下Mマネ）制度を提唱してきたが、なかなか現場に普及しないのが現状であり、より簡便で有効なシステム作りが求められていた。そこで、ヘルスチェックシートやインジャリーレポートなど、今まで紙媒体で使用していた物を電子化し、PCやスマートフォンで簡便に入力・管理できるように、チームマネジメントシステムを開発し運用してきた。

このシステムを普及すべく、今年から大分県では県サッカー協会の方針として、大分県トレセンに選抜された選手にメディカルチェックのデータ提出を求めた。これは1年に最低4回はチームでチェックを実施してもらうことを、そしてチームにMマネが定着する事を目的としている。

そしてメディカルマネージャー養成のための講習会も、県内各地域にて講習会を前年に比べ増加させ、2020年度に小中高登録全チームへのMマネ設置を目標としている。

2019年1月から9月の期間で、140名の方が講習会を受講して、79名がシステム利用料を支払い、実際にシステムを活用している。県サッカー協会の方針もあり、今回登録したMマネの多数がサッカー競技に関わっていた。また、サッカーに限らず、総合型地域スポーツクラブや中体連・高体連などの会合でも広報し、Mマネ養成をすすめている。

今後も、多くの子供達が傷つき挫折しないよう、このシステムを早期に現場に普及させ、各チームにMマネが配置できるよう今後も取り組んでいきたい。

7 当院における腰椎疲労骨折と腰椎分離症の発生率

○石田 直也、藤野 毅、大場 俊二

医療法人 大場整形外科

大分スポーツリハビリテーションセンター

key word：腰椎疲労骨折、腰椎分離症、成長期腰痛

【はじめに】

成長期腰部スポーツ障害として、腰椎疲労骨折（以下、LSF）から腰椎分離症（以下、LSL）への一連の過程が代表疾患としてあげられ、早期受診・治療の重要性が指摘されている。そこで、腰痛を主訴に当院を受診し、LSF及びLSLと診断された数を比較・検討した。

【方法】

2015年4月から2018年3月までの3年間に腰痛を主訴に当院を受診した成長期（18歳以下）患者1359例（平均年齢：14.2歳）を対象とした。

【結果】

初診時、成長期腰痛患者の中で理学所見や、単純X線所見からLSFを疑いMRI検査実施864例、そのうちLSF（急性期）と診断したのが438例（32.2%）であり、65例（4.8%）はMRIでの急性期所見を認めず、X線・CT検査などから偽関節としてLSLと診断された。そして、LSFのうち既に他部位がLSLの症例が19例（1.4%）であった。また、MRI検査未実施495例（36.4%）のうち、X線でLSLと診断したのは31例（2.3%）であった。MRI検査実施・未実施のLSL合計数は115例（8.5%）であった。

【結論】

本研究により、当院の場合、多くはLSFそれも早い段階で受診している症例が多いことがわかった。これは、大分県においてスポーツ現場及び保護者・監督などのLSFに対する早期受診・治療の重要性が普及してきていることが考えられる。これらの認識を高められるようさらなる努力を継続していきたいと考える。

8 成長期サッカー選手における アスレティックリハビリテーション ～当院で行った3年間の傷害調査をもとに～

○吉田 渉、牧 健一郎、大場 俊二

医療法人 大場整形外科
大分スポーツリハビリテーションセンター

【はじめに】

サッカー選手の外傷では上肢の受傷が比較的多いが、上肢に着目した報告は少ない。そこで今回、当院を受診した症例の傷害調査を行い、また当院にて行っているアスレティックリハビリテーション（以下アスリハ）を紹介する。

【対象・方法】

2014年4月から2017年3月までの3年間に当院を受診したスポーツ選手18760名中、サッカー選手4223名、その中の外傷（2424名）を対象とした。

また、頭・頸部、上肢、体幹・股関節、下肢に分類し、検討を行った。

【結果】

頭・頸部の外傷54名（2.2％）上肢の外傷は659名（27.2％）であり内訳は、手関節・前腕の骨折、手指の骨折、手指の捻挫の順で多かった。体幹・股関節の外傷160名（6.6％）下肢の外傷1551名（64.0％）であった。

【考察】

サッカー競技では、下肢の外傷が大半を占めているが上肢の外傷も軽視できない。受傷機転として、転倒やボールが手に当たる等によって受傷している。また、幼少期からの運動習慣も影響していると考えられる。コーディネーショントレーニングを行うことでスピード・身体操作性の向上を認めたと泉原らは報告している。そこで、当院で行っているアスリハの中にコーディネーショントレーニングを導入し、行ったので報告する。

9 骨粗鬆症患者に対する当院の関わり

○小樋 雅隆、相馬 大樹、松尾 信夫、
尾崎 正美

医療法人 大場整形外科
大分スポーツリハビリテーションセンター

【はじめに】

当院は、幅広い年齢層の患者が受診し、一般・スポーツ整形外科疾患の患者に対して運動療法を中心としたリハビリテーションに力を入れており、手術から元の社会生活に回復するまでの治療が行える有床診療所である。昨今、超高齢化社会の影響で当院に来院される患者の年齢層が高くなりつつある。今回は骨粗鬆症患者に焦点を当てて、病院内の活動と病院外の活動の整理と見直しをした内容を報告する。

【対象と取り組み】

病院内の取り組みについて。平成28年4月から令和元年9月までの期間で当院骨密度検査を実施した患者を対象とした。対象者の①新規実施人数、②経過実施人数、③骨密度検査対象者（圧迫骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折）の検査実施割合をまとめた。

病院外の取り組みについて。当院では行政と連携を取り合い、対外活動として地域ふれあいサロンなど体操教室に出向し、骨粗鬆症治療の啓発に努めている。その際、骨粗鬆症治療の啓発とともにリズム運動等の運動療法も実施している。また平成31年2月に実施された中外製薬主催のOLSセミナーで他院での骨粗鬆症治療についての情報交換会に参加し、大分県OLSネットワークに参加する運びとなった。骨粗鬆症治療を進める上で、行政や他院と連携を取りながら治療をしていくベース作りを行っている。

【考察とまとめ】

病院内の取り組みとして、一時期と比べて骨粗鬆症患者が減少傾向にある。原因としてはスポーツリハビリタイム（以下、スポリハ）導入によりリハビリ対象者の意識が一般患者よりスポーツ患者に向いていること、メインのポロプロジェクトメンバー離職等が理由で挙げられる。また骨粗鬆症対象者に対する検査実施割合も疾患により偏りがあるため、スタッフに全体周知する必要がある。そのため骨粗鬆症患者の治療の流れを整理し、全体周知として尾崎Dr.に骨粗鬆症治療についてのレクチャーを実施した。

【倫理的配慮、説明と同意】

本発表は倫理的配慮に注意し、個人のプライバシーが特定できる内容は記載していない。

名義後援・広告

名 義 後 援

大分県教育委員会

公益財団法人 大分県体育協会

一般社団法人 大分県医師会

公益社団法人 大分県薬剤師会

公益社団法人 大分県看護協会

公益社団法人 大分県栄養士会

公益社団法人 大分県理学療法士協会

公益社団法人 大分県作業療法協会

一般社団法人 大分県歯科医師会

一般社団法人 大分県サッカー協会

大分県スポーツ医科歯科研究会

大分県障害者スポーツ指導者協議会

公益社団法人 大分県柔道整復師会

大分スポーツリハビリテーションセンター

大分県立看護科学大学

OBS大分放送

TOSテレビ大分

OAB大分朝日放送



株式会社 **オリエンタル 歯科器材**
HENRY SCHEIN®

本社	大分市今津留3丁目16-18	〒870-0938	TEL 097(558)7507	FAX(551)5731
福岡支店	福岡市博多区東光寺1丁目25-18	〒816-0096	TEL 092(436)7230	FAX(436)7231
北九州営業所	北九州市八幡西区丸尾町12-12 グリーンコート101号	〒807-0826	TEL 093(692)5899	FAX(647)5811
延岡営業所	延岡市西階町1丁目2408番地10 パークウェスト1号室	〒882-0804	TEL 0982(35)0531	FAX(35)0705
熊本営業所	熊本市東区昭和町1-19	〒861-2108	TEL 096(360)7008	FAX(360)7018
長崎営業所	諫早市貝津町828-1	〒854-0063	TEL 0957(25)4362	FAX(25)4542
宮崎営業所	宮崎市恒久4丁目8-3	〒880-0913	TEL 0985(64)0957	FAX(64)0958
鹿児島支店	鹿児島市草牟田2丁目3番5号	〒890-0014	TEL 099(248)8620	FAX(248)8630

NEC歩行・立ち姿勢測定システム

好評取り扱い中！！

※NECソリューションイノバーダー社製

- 1 3Dセンサーに向かって歩くだけで「歩行時の姿勢」を測定

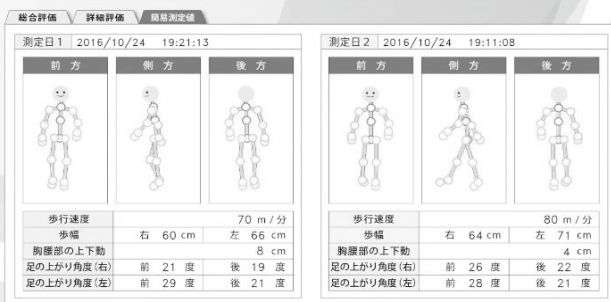
身体にマーカーなどを身に付けず、3Dセンサに向かって歩くだけで、簡単に測定可能

- 2 歩行測定結果は年齢と性別に応じた基準点で点数化

※株式会社アシックス スポーツ工学研究所開発の歩行姿勢評価基準に基づき算出

- 3 歩行測定過去データを利用した身体の変化を確認

- 4 直立した状態で肩、腰など体の歪み「立ち姿勢」を測定



お問い合わせ先

テレビ宮崎グループ
株式会社システム開発 大分支社
〒870-0025
大分市顕徳町1丁目14-1河邊ビル103
TEL097-538-6163

AIR SALONPAS

スポーツ時の
筋肉痛、筋肉疲労に

Hisamitsu®



ジェット噴射で、冷却力アップ 微香性で、においダウン

エア-サロンパス®ジェット^α

筋肉痛・筋肉疲労に 第3類医薬品

※当社エア-サロンパスEX比

◎この商品に関するお問い合わせは、久光製薬お客様相談室へ。☎ 0120-133250
受付時間／9:00-17:50(土日・祝日・会社休日を除く) www.airsalonpas.jp



学校法人

平松学園

大分医学技術専門学校

柔道整復師科・鍼灸師科

大分短期大学園芸科
大分臨床検査技師専門学校
大分臨床工学技士専門学校
大分視能訓練士専門学校
大分リハビリテーション専門学校
理学療法士科・作業療法士科・言語聴覚士科
大分歯科専門学校
歯科衛生士科

大分介護福祉士専門学校
大分スクールオブビジネス
大分東明高等学校 看護専攻科
大分東明高等学校
向陽中学校(併設型中高一貫)
千代幼稚園
城南幼稚園
明野第一幼稚園

大分市千代町2丁目4番4号

☎(代) (097) 535-0201 FAX (097) 535-0966

HP <http://www.hiramatsu.ac.jp/>

まだないくすりを
創るしごと。

www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。

 **astellas**
アステラス製薬株式会社

感動を、シェアしたい。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。
そして、地域の皆さまやお客さまと、
その発展・成功を共に喜び、
「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。
それが私たちの、感動です。

 **大分銀行** 明野支店

関節機能改善剤

〔処方箋医薬品〕 注意—医師等の処方箋により使用すること
日本薬局方 精製ヒアルロン酸ナトリウム注射液

アルツ[®]関節注25mg
アルツ[®]ディスポ[®]関節注25mg

- 薬価基準収載
- 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む
使用上の注意等については添付
文書をご参照ください。

 **ARTZ[®]**
ARTZ Dispo[®]

〔製造販売元〕  **生化学工業株式会社**
東京都千代田区丸の内一丁目6-1

発売元〔資料請求先〕

 **科研製薬株式会社**
〒113-8650 東京都文京区本駒込2丁目28-8
医薬品情報サービス室
(2016年9月作成) ARZ04GK

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。

 **株式会社ツムラ**

<https://www.tsumura.co.jp/>

資料請求・お問い合わせは
お客様相談窓口まで

【医療関係者の皆様】 【患者様・一般のお客様】
Tel.0120-329-970 Tel.0120-329-930

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社



Sports Pharmacist
スポーツファーマシスト

ドーピング禁止薬についての質問は、
薬剤師会にお問い合わせ下さい！

日本アンチ・ドーピング機構の認定薬剤師
スポーツファーマシストがお答えします。

【問合わせ先】

大分県薬剤師会 薬事情報室

TEL : 097-544-9512

FAX : 097-544-8060



公益社団法人大分県薬剤師会

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、

次の時代へ大胆に伝えていくために一。

私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

AsahiKASEI

旭化成ファーマ株式会社

URL: <http://www.asahikasei-pharma.co.jp>



そんな歯医者さんのお悩み、解決します。

「そう、そう！
これが欲しかった。」

歯科材料・歯科器械ディーラー
fd フォルディ株式会社

大分営業所 〒870-0848 大分市賀来北 1-17-7
TEL 097-549-0588 / FAX 097-549-2070

宮崎営業所 〒880-0035 宮崎県宮崎市下北方町下郷 6066 時任ビル 1F
TEL 0985-24-7034 / FAX 0985-27-0282

一般社団法人 大分県スポーツ学会 第11回学術大会 プログラム

発 行：一般社団法人 大分県スポーツ学会

理事長 稲垣 敦（大分県立看護科学大学 教授）

発行日：2019年12月1日

事務局：大分スポーツリハビリテーションセンター（担当：石田、佐藤、牧）

〒870-0165 大分市明野北1-1-11

TEL 097-574-5132 FAX 097-574-5133

社会医療法人 敬和会 大分岡病院（担当：小副川、栗秋、佐藤）

〒870-0192 大分市西鶴崎3-7-11

TEL 097-522-3131（代） TEL/FAX 097-522-3576

編集委員長：島田 達生（大分医学技術専門学校 校長・大分大学 名誉教授）

編 集 委 員：平川 史子（別府大学 食物栄養科学部 教授）

天田 浩司（独立行政法人国立病院機構 西別府病院 循環器内科部長）

保科 早苗（独立行政法人国立病院機構 西別府病院 スポーツ医学センター 歯科部長）

谷口 勇一（大分大学 教育学部 教授）

佐藤 浩二（社会医療法人敬和会 大分岡病院 法人統括リハビリテーション部長）

河村 聡志（大分市医師会立アルメイダ病院 薬剤部 / 公益社団法人 大分県薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会 委員）

石田 直也（医療法人 大場整形外科）

ホームページ：<http://oitakenspo.jp/>

印 刷：有限会社中央印刷

〒870-0025 大分市顕徳町2丁目2-38

TEL 097-532-3805 FAX 097-533-7779

柔と共に300年

各種保険・交通事故・労災取り扱い

接骨院・整骨院

は身近な健康のパートナー



大分県整骨会館

“柔道と青少年健全育成の一役を担う”

公益社団法人 大分県柔道整復師会

会 長 江崎博明
副会長 安東鉄男
理 事 高橋祥三
監 事 塩井卓広

副会長 鎌田実信
理 事 首藤彰典
理 事 尾林大生
監 事 阿部幸広

副会長 野田光広
理 事 前川羊介
理 事 加藤 豪

事務所 〒870-0921 大分市萩原4丁目8番58号
大分県整骨会館
TEL 097-503-3334
FAX 097-503-3338
<http://www.seikotsu-oita.jp/>
E-mail:ju-sei@seikotsu-oita.jp

